

新聞新書

2005年(平成17年)7月3日 日曜日

地震対策マップ出版

色、模様で危険度区分

東京で近い将来、起こる可能性が大きい大地震に備え、建物倒壊などの危険がある地域や地震発生時の対応などを見やすくまとめた「あなたの命を守る 大地震 東京危険度マップ」が出版された。

東京都が2002年に公表した「地震に関する地域危険度測定調査報告書」をふまえて、B5判カラー80頁(23区は各2頁、多摩地区は全体で2頁)に地域ごとの危険度を地図で示しているほか、地震への備えや発生後の対応をまとめている。

元資料では、地震発生時の建物倒壊や火災の起こりやすさ、避難の難しさが各丁目ごとに5段階の数値で示されているが、一般の市民には利用しにくかった。これに対し「マップ」では、報告書のデータを約1万5000分の1の縮尺の地図に落とし、危険度を色や模様で区分、地震時の危険な地域が一目でわかるようになっている。都が指定する避難場所や、避難の必要がない「地区内残留地区」も色とマークで示した。

一方、「大地震完全対策マニュアル」と題された後半部分では、家庭にいる時や外出している時などのケースごとに、取るべき行動やけがの処置方法、家具の固定や住宅の耐震診断方法

などについて対策を紹介している。政府の中央防災会議が昨年12月に公表した中間報告では、東京直下でマグニチ

ュード7級の大地震が起きた場合、死者は最悪で1万2000人に達し、数百万人の帰宅困難者が出ると予想されている。

監修した首都大学東京の中林一樹教授(都市防災学)



出版された「東京危険度マップ」

下でマグニチ

朝日出版社刊。税込み700円。一般書店で販売している。